

事項	タネバエの産卵特徴と成虫の発生予測		
ねらい	<p>タネバエ幼虫によるだいこんの根部被害は、産卵の多い時期に根部が肥大する5月中旬～6月上旬は種の作型で多発する（平成11年度指導参考資料）。今回、産卵特徴と産卵をもたらす成虫の発生予測について明らかにしたので、防除対策上の参考に供する。</p>		
指導参考内容	<p>1 産卵特徴とだいこん根部被害の発生時期</p> <p>(1) 産卵は、年次によって異なるが、5月上旬～7月上旬に多い。このため、だいこんの根部被害は、産卵が多く幼虫密度が高まる時期に根部が肥大する5月中旬～6月上旬は種で多い。</p> <p>(2) 越冬世代成虫は、発生が少ないにも関わらず、多くの卵を産む。</p> <p>2 越冬世代成虫の発生時期</p> <p>(1) 越冬蛹は冬の低温によって休眠から覚め、発育零点5.9℃有効積算温度159日度で成虫羽化に達する。 (<math>1/D=0.0062T-0.0372</math> D：羽化までの日数、T：地温)</p> <p>(2) 越冬世代成虫の発生時期は、越冬蛹が生息している地下5cm深の地温によって有効積算温度から予測できる。</p>		
期待される効果	タネバエの発生予測上の基礎資料となるとともに、適切な防除指導上の参考となる。		
利用上の注意事項	なし		
担当	青森県農業試験場 環境部	対象地域	県下全域
発表文献等	<p>平成11年度 指導参考資料 平成9～12年度 青森県農業試験場成績概要集 平成12年度 東北農業成果情報（予定）</p>		

【根拠となった主要な試験結果】

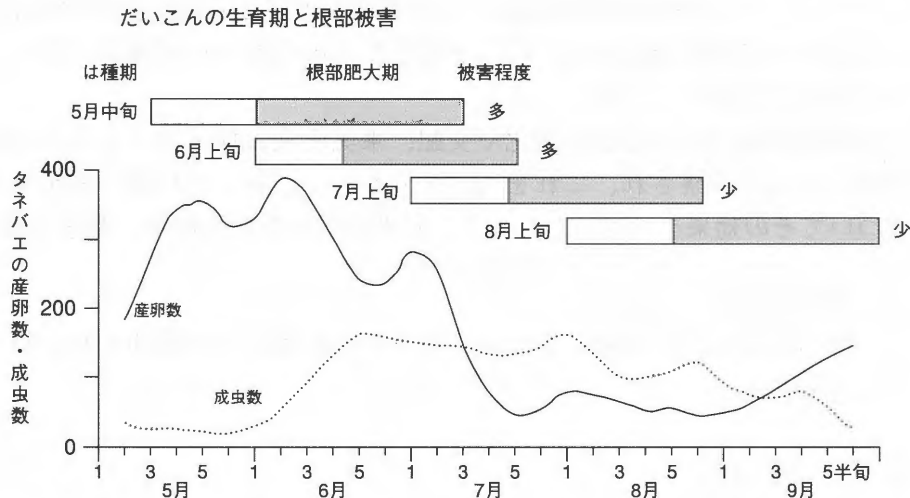


図1 は種時期によるだいこん根部被害の発生程度と産卵数の関係 (平成9～12年 青森農試)

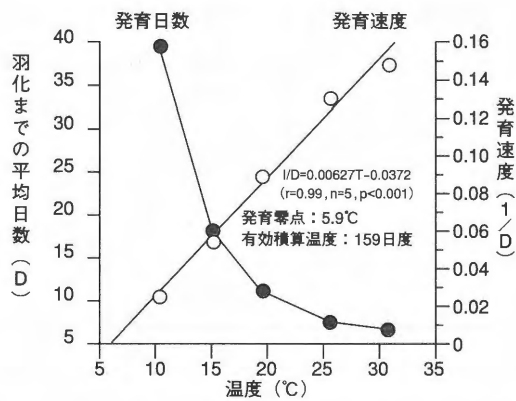


図2 越冬蛹から成虫が羽化するまでの日数と温度との関係 (平成10年 青森農試)

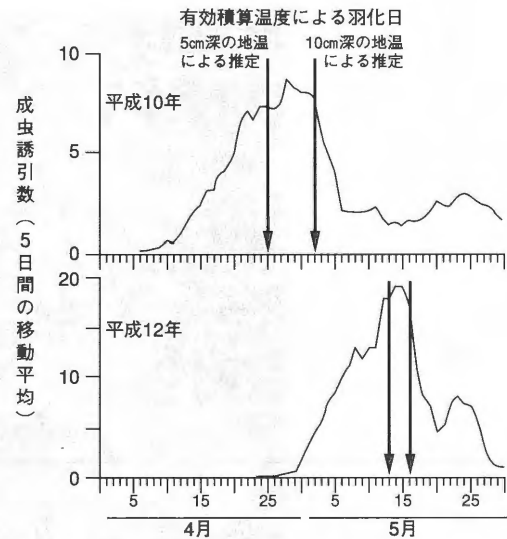


図3 越冬世代成虫の発生と羽化日予測 (平成10、12年 青森農試)